岐阜新聞真学塾

出題　螢雪ゼミナール

岐阜駅前校・築樋拓真

国語を様々な側面からみて、日本語の面白さや深さを知ってもらえればと思います。

問題【国語】

「風吹けば桶屋が儲かる」ということわざがあります。なぜ「風が吹けば桶屋が儲かる」のか、理由を説明してみましょう。

豆知識 雑学コラム

意外な？因果関係

今回はことわざについてみていきましょう。「風吹けば桶屋が儲かる」は、ある出来事が一見すると全く関係のないものに影響を与えることの例えで出てくることわざですね。このことわざは江戸時代にできたもので、東海道中膝栗毛にも出てくることわざとしても知られています。なぜ、「風吹けば桶屋が儲かる」のか見ていきましょう。

まず、風が吹くとどうなるでしょうか。風が強い日の学校の運動場を想像してみてください。砂ぼこりが起こりますよね。江戸時代には舗装された道路もないため、強い風が吹くと町中が砂ぼこりだらけになってしまいます。この砂ぼこりが目に入ると、目が病気になります。この時代、医療技術は今ほど進歩していないため、目が病気になると失明する危険性が今より高く、盲目の人が増えていきます。江戸時代には、年金のような制度はありませんでしたが、その代わり、盲目の人は、盲目の人しかつけない鍼灸や三味線弾きといった職業に就くことで経済的に自立をしていました。つまり、盲目の人が増えると、三味線弾きの数が増えて、三味線が必要になります。三味線は胴の部分に猫の皮を使います。そのため、三味線をつくるためには猫を殺さなければいけません。猫が減っていくと、ねずみの数が増えて、そのねずみたちが多くの桶をかじります。すると、桶を買い換える必要が出て桶屋が儲かるというわけです。江戸時代の事情を知らないと、なかなかイメージできないかもしれませんね。

では、「風吹けば桶屋が儲かる」を現代風にアレンジするとどうなるでしょうか？　例えば、「コロナウイルスが流行すると、ミシンが売れる」はどうでしょうか。コロナウイルスが流行すると、マスクが必要になる。マスクを家で作るために、ミシンを買う人が増えるというものです。実際、大手ミシンメーカー「ブラザー工業」は、2020年の4月から12月のミシン部門の売り上げが前の年の同じ時期と比べて増えました。このように、「風吹けば桶屋が儲かる」のような出来事は、今でも起こる、不変なことなのですね。

さて、みなさんも「風吹けば桶屋が儲かる」を身近な例を使ってアレンジしてみましょう。そして、因果関係を説明してみましょう。面白いことわざができるかもしれませんよ。

【解答】風が吹くと、砂埃が起こって、目を失明する人が出てくる。失明した人が三味線弾きになることで、三味線がたくさん必要になる。三味線をたくさん作るために、ねずみが増える。増えたねずみが桶をかじることで桶を買い替える必要が出てきて、桶屋が儲かる。